

# 2024年の復興米栽培の様子

## 復興米の田植え

ほっとすぺーす富田林・喜志っ子クラブ：令和6年6月2日（喜志町）

喜志小学校・富田林市役所新人職員：令和6年6月3日（喜志町）

東条小学校：令和6年6月6日（龍泉）











「奇跡の復興米の田植え」メッセージ  
(喜志っ子の皆さん)

奇跡の復興米栽培委員会、JA 大阪南青年部、壮年部、喜志町内会そして喜志っ子の皆さんこんにちは！

6月に入り、喜志地区の田圃の緑も一段と深まっているように感じられますが、ご参加の皆さんもお元気でご活躍のことと思います。

13年前の東日本大震災で大きな被害を受けた大槌町の復興のために富田林市や喜志町内会の皆さんからご支援をいただき、人権の町は大変感謝しております。

6月2日は、喜志町内会はじめ喜志っ子の皆さんとともに「奇跡の復興米」の田植えが行われるとお聞きました。

私も皆さんと一緒に田植えをしたかったのですが、残念ながら参加する事ができず申し訳ございません。代わりにメッセージをお送りします。

皆さんが田植えをする稲は、2011年3月に発生した東日本大震災の大津波で大槌町が流されてしまいました。しかし、全て無くなった住宅の跡地に、奇跡的に生きていた3株の稲穂から育てた大切な稲です。

2014年、そのうちの1キログラムを古川富田林市長様が、大槌町の復興を支援したいと富田林に持ち帰ったことがきっかけです。

その後、富田林市、JA 人取南、喜志町内会、喜志町子ども会の方々が愛情を込めて育て上げ、お陰様で今では「奇跡の復興米」というブランド名までつけていただきました。

これからも「奇跡の復興米」を通じて富田林市と大槌町の絆をより一層深めていただきますようお願いします。

本日、笑顔で田植えをされた田んぼが、今年の秋にはたわわに実った稲穂が黄金色に染まることを想像しております。

今年の稲刈りには是非、私も参加させてください。

2024年6月2日

NPO 法人遼野まごころネット

理事 白澤良一

## 復興米の稲刈り

ほっとすぺーす富田林・喜志っ子クラブ：令和6年9月8日（喜志町）

喜志小学校：令和6年9月10日（喜志町）

東条小学校：令和6年9月25日（龍泉）

富田林市役所新人職員：令和6年9月10日（喜志町）









「奇跡の後継者」稲刈りに参りせて  
数えて11回自となり「奇跡の後継者」稲刈り  
おめでどういひます。  
今年も振り返ると、白々文自然に、振りまわされ  
ている月日だ、たまたまに思ひます。  
元旦におきた石川県の津波に始まり、そして  
日本列島は台風は振りまわされている事を、非心  
くく思ひます。  
そして、お盆さんが楽しくに待っている稲刈りが  
「どうか、お盆さんがあそびます」と願ひました。  
また、お盆さんが自となり「奇跡の後継者」のルーツは  
今から10年前、東日本大震災の後、津波で流され  
た戦場の玄閑地に子孫の、やせこりた稲が  
生育していた事から、はじまります。

私か言自、大塚が諸は、漁師町で、田んぼは、なく  
児童生徒達は、お盆さんのように、稲と自でる事を  
体験していません。  
お盆さんは、「奇跡の後継者」の、すばらしい体験に  
感謝し、日本の和食文化の、「白いごはん」と、今晚  
ゆとり味あそびます。如何にしようか。  
そして、多量の白米にあつた様と感謝を申し  
上げ、挨拶いたします。

二〇二四年 九月 吉日

岩手県大槌町  
お盆さん  
菊池 妙